

令和8年度 丸亀市の全国学力・学習状況調査結果について

丸亀市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の目的

- (1) 文部科学省は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために、本調査を実施しました。ただし、本調査により測定できる学力は、特定の一部分であり、これ以外にも様々な資質や能力が、学校教育によって育まれていると考えています。
- (2) 丸亀市教育委員会は、本市の教育の結果を把握し、指導の改善に向けて有効に活用するために、本調査に参加しました。

2 調査の実施状況

- (1) 調査実施日 令和8年4月23日（木）
- (2) 調査対象 対象学年の児童生徒が在籍しない本島小学校を除く市内公立全小・中学校
小学6年生（934人） 中学3年生（845人）
- (3) 調査内容 ① 教科に関する調査 小学校の国語と算数
中学校の国語、数学と英語
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3 教科に関する調査結果の概況

【小学校】国語と算数の市の平均正答率は、いずれも全国の平均正答率をやや下回りました。

【中学校】国語と数学の市の平均正答率は、いずれも全国の平均正答率をやや下回りました。また、学習用端末を使ってオンラインで出題・解答するC B T方式で行われた英語（3技能：「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）については、国際的な学力調査で用いられる「I R T（項目反応理論）スコア」が、全国のI R Tスコアを下回りました。

※ 平均正答率とは、全問題数に対する平均正答数の割合で、高い数値ほど良好と言えます。

※ I R Tスコアとは、I R Tに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもので、高い数値ほど良好と言えます。

4 小学校 国語について

- (1) 領域からみた学力・学習状況の傾向

※ 表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。また、「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

□文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

□筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

■ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
■ 目的に応じて、必要な情報を見付けることができる。

(2) 全体を通しての考察と授業改善の方向性

- ・ 当該学年に配当されている漢字を、前の学年までに配当されている漢字と合わせて書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにする。
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けたり、文章を読んで理解したことを基に、筆者が挙げている事例を自分の経験に置き換えて考えたりする。

5 小学校 算数について

(1) 領域からみた学力・学習状況の傾向

※ 表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。また、「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

□ 示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できる。
□ 直方体の箱の形を構成する面について理解している。
■ 立方体の体積の計算による求め方について理解している。
■ 異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できる。

(2) 全体を通しての考察と授業改善の方向性

- ・ ブロックなどの具体物を用いて直方体や立方体の体積を比較する活動を通して体積も面積などと同じように、単位の大きさを決めるとその幾つ分として数値化して捉えることができることを理解できるようにする。
- ・ 分数の意味や表し方に基づいて、異分母の分数の大小を判断できるように、通分をして分母をそろえたり、分数を小数で表したりするなど、複数の方法で分数の大小を比べることで、分数の表し方についての理解を深める。

6 中学校 国語について

(1) 領域からみた学力・学習状況の傾向

※ 表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。また、「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

□ 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができる。
■ 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができる
■ 文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉えることができる
■ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる

(2) 全体を通しての考察と授業改善の方向性

- ・ 辞書の言葉そのままではなく、文章全体のニュアンスや登場人物の文脈に柔軟に適応させながら「言い換え表現」を探すなどの活動を通して、思考の往還する力を付けるようにする。
- ・ ICT 端末なども活用しながら、似たような言葉の「違い」をみんなで言葉にするレクリエーション的な活動や文章に出てくる特徴的な副詞、擬音語・擬態語、助詞などをあえて消した文章を提示し、元の文章と比べる活動等を取り入れるようにする。

7 中学校 数学について

(1) 領域からみた学力・学習状況の傾向

※ 表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。また、「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

□同類項の意味を理解している。
□起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができる。
■反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができる。
■具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができる。

(2) 全体を通しての考察と授業改善の方向性

- ・ 反比例の学習では、表、式、グラフを関連付け、変化や対応の特徴を捉えることが大切であり、また、様々な問題に対して、関数を活用して解決できるようにするために、数学的に説明する活動を取り入れたり、不十分な説明を取り上げ、よりよい表現へと洗練する活動を取り入れたりする。
- ・ 証明が成り立つと予想した事柄について、仮定と結論を明確にした上で、論理的に考察し、それを数学的に表現することが大切であり、証明を書き終えた後に、根拠は明確か、記号や用語の使い方は適切かなどの視点で、その証明を振り返る活動を取り入れるようにする。

8 中学校 英語について

(1) 領域からみた学力・学習状況の傾向

※ 表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。また、「出題の趣旨」は、内容を要約して表記しています。

□日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができる。
■日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる。
■社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる。
■音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。

(2) 全体を通しての考察と授業改善の方向性

- ・ 言語活動を行う際に、読み取るべき情報に関連する語句や表現に着目して、自分の置かれた状況などから、自分にとって必要な情報とそうでない情報を整理しながら読み、必要な情報を読み取ることができるようにする。
- ・ 文章を読む際に、文章全体を通して読み、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落の関係などの文章全体の構成を理解することが大切であり、文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかをペアやグループで話し合う活動などを取り入れるようにする。

9 小学校 質問紙調査について

(1) 回答率からみた生活習慣や学習環境等の傾向

※ 表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。

☐ 国語の勉強が好きである。
☐ 国語の勉強が得意である。
■自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。
■総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている。

(2) 結果について

- ・ 毎日同じ時刻に起床し、朝食を毎日食べている児童の割合は引き続き高い傾向が見られる。
- ・ 学校生活において、困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できると回答した児童の割合は高く、ここ3年間ずっと増加している。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童の割合は高い傾向が見られる。
- ・ PC・タブレットなどのICT機器を使い、情報収集や文書作成に取り組んでいるものの、情報整理やプレゼンテーションなどの学習活動をさらに充実させることが重要である。

10 中学校 質問紙調査について

(1) 回答率からみた生活習慣や学習環境等の傾向

※ 表中□印は良好な内容を示し、■印は課題と考えられる内容を示しています。

☐ これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった。
☐ 数学の勉強は得意である。
■総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている。
■自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。

(2) 結果について

- ・ スマートフォン等でSNSや動画を長時間視聴する生徒の割合は高い傾向が見られる。
- ・ 学校の勉強や悩みについて、親や家族と話す生徒の割合は高い傾向が見られる。
- ・ 「自分によいところがある」と思う生徒の割合は、低い傾向が見られる。
- ・ PC・タブレットなどのICT機器を使い、情報収集や文書作成、情報整理やプレゼンテーションの作成などの学習活動をさらに充実されることが重要である。